



「笑顔とつながり」

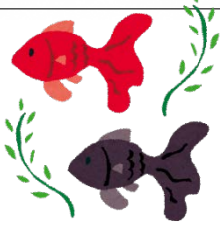
# 永田台

サステイナブルスクール

No.536 8・9月号  
横浜市立永田台小学校  
TEL(714)4277  
令和2年8月21日



進んであいさつ  
笑顔あふれる  
住みよいまちに



## 頑張ることより、工夫すること

校長 武山 朋子

ほんの2週間の夏休みを終えて、再び子どもたちの声が学校に響く日々が戻ってきました。遠出を控えるようにという呼びかけが続く夏休みは、いつもとは全く違う夏を感じさせましたね。休み明けのそれぞれの学年の様子を担当から聞き取る中で、私はこんなことを発見しました。

**「学年が下がるほど、久しぶりの学校に元気いっぱい張り切って登校してきており、学年が上がるほど、何らかのしんどさを言葉にならない姿として表しているようだ。」**ということです。

1年生には毎日「たのしかった～！」と下校する子どもがたくさんいます。初めての50m走も、暑いのに「もっと走りたい！」と懇願するほどです。2年生は友達に会えたことがうれしくて仕方ない様子で、家族で過ごした夏休みの話をたくさんしてくれます。3、4年生は4階の教室が最上階のため屋上の照り返しでなかなか室温が下がらないのがありますが、暑さで少々ばて気味です。(現在サーキュレーターや扇風機を総動員して換気をしつつも室温を下げようと努めています。)それでも「もっと夏休みがよかった」という声は、不思議とあまり聞かれません。5年生は、元気に暑さ負けの両方を見せつつも、学年集会の中で「これからは高学年として…」といった発言が出るなど、頼もしさを見せ始めています。そして6年生ともなると、長期休業明けならではの一種の「よそよそしさ」も見られ、思春期の扉を開きかけた横顔が、なんだか大人びています。

低学年の子どもが学校に張りきって登校しているのは、実は日々コロナに関するニュースが流れ、得も言われぬ不安を感じ取る中で、「当たり前」の日常である学校生活に浸りきりたい思いの表れかもしれません。一方高学年になると、大人と同じように先行きへの不安を抱え、「いやだな」という気持ちをもちつつも「自分が頑張らなくては」と自分自身を鼓舞しているのかもしれません。

でも、こんなに様々な制限があり先の見えない世の中なのですから、しんどくて当然です。大人の私たちだってそうなのですから、本当はすべき課題(夏休みの宿題など)にもなかなか気持ちが整わなくて、取り組めなかったとしても仕方がないことだと思います。

With コロナの日々は長丁場になりそうです。暑さのほうもまだまだ続きそうです。そう考えると今は、「頑張る」ことよりもその中でどんな「工夫」をして、日々の生活をより豊かにするかが大切です。エアコンをつけずに暑さを我慢して「頑張る」よりも、涼しくする「工夫」を考えましようと言えば分かりやすいでしょうか。子どもたちにも、この「工夫」をすることが、脳を活性化し、新しい知恵を生み、より賢い頭をつくるんだよ、と朝会でも話したところです。学校生活をより豊かにする工夫を皆で考える、秋に向けてそんな学校生活でありたいと思います。

